

2024 年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2025年3月31日

大阪信愛学院小学校

学校評価委員会

はじめに

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2024 年度に実施した「学校評価」の内容をご報告致します。

1.建学の精神

「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」

1877年(明治10年)、フランスから派遣された4人のシスターたちは、町の中にすてられた子ども達を養育することから始めた。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神の表れである。その精神に従い、弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践した。

1884年(明治17年)、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立された。信愛に集う生徒たちが建学の精神を体現し、社会に貢献できる人間になること、愛と奉仕の精神をもった人間の育成を目指す。

2.教育目標

カトリック精神にもとづく人生観をもたせ、豊かな心を養うと共に、物事を正しく判断して行動し、進んで国際社会に奉仕できる明朗で健康な人を育てることを目指す。

- (1) 創立者と建学の精神について理解を深める。
- (2) 生活態度を磨き、社会における実践力を身につけさせる。
- (3) 強い身体と豊かな心を育む。
- (4) 基礎学力の定着と向上をはかる。
- (5) グローバル化する社会に対応できる力をつける。

3.2024 年度(令和 5 年度)学校目標

- (1) 魅力ある信愛教育を追求する。
- (2) 児童が持っている力を最大限に伸ばす。
- (3) ICT 機器を効果的に活用した授業を展開する。
- (4) 募集・広報活動の拡張・充実を図る。

4. 2024年度(令和6年度)学校目標と具体的方策及び評価指標

	今年度の重点目標	具体的な取組計画	評価指標
魅力ある信愛教育を追求する。	聖書の言葉にふれさせる。	毎月のみことばを唱え、自分の生活をふり返る。	みことばを身近なものとしてとらえ、毎日の生活にいかそうとする。
	感謝と思いやりの心を養う。	「神様が、人が、そして自分が好き」という思いを育てる。	お互いの長所、短所を理解し、自分も友達も大切にできる。
生活態度を磨き実践力をつける。	元氣な挨拶や返事を励行する。	先生から児童へ、児童から先生へ、児童同士が元氣な挨拶をするよう意識づける。	先生や友達、来校者に進んで挨拶ができる。
強い身体と豊かな心を育む。	基本的な礼儀作法や正しい姿勢を励行する。	正しい姿勢で、授業の開始と終了の挨拶をするよう意識づけをする。	休み時間と授業の区別をつけ、集中して学習に臨む姿勢を育てる。
		マナーを守り、安全に登下校できるように指導する。	集団下校を通し、縦割りでマナーを守り、安全に登下校する。
	あきらめず最後までやり通す心を養う。	放課後などの時間を活用し、あきらめず最後まで課題をやり通すよう支援する。	学習で「わからない」をそのままにせず、「わかった」と思えるまで取り組む姿勢を養う。
基礎学力の定着と向上をはかる。	自ら考える姿勢を育む。	新しい学習に対し、主体的に自分の知識を活用し、考えたり調べたりする習慣を身につけさせる。	日々の授業・放課後学習・土曜講座・パワーアップ学習などを通して、ひらめき・やる気・可能性を引き出す。
	効果的にICT機器を活用した授業を展開する。	ICT機器を活用し互いに意見をかわし、それぞれの考えを深める。	タブレットを使った効果的な授業の研究をする。
グローバル社会で求められる力をつける。	進んで英語学習に取り組む姿勢を養う。	英語の課題に、楽しんで取り組む姿勢を養う。	毎日の家庭学習に英語学習を取り入れ、リスニング力を養う。
	異なる考えを柔軟に受け入れる心を育てる。	わがままをおさえ、友達の意見を最後まできけるように導く。	日々の学校生活の中で、何がわがままなのかを伝え、相手の立場になって考えられる児童に育てる。
募集行事・広報活動の充実をはかる。	入試関連行事の充実をはかる。	オープンスクール、入試説明会の充実をはかる。	本校を理解し、入学希望者が増えるよう、それぞれの時期に適切な内容のオープンスクールを実施する。
	ホームページを効果的に活用する。	ホームページのブログによる発信の充実をはかる。	ホームページのブログを利用し、日々の学校生活の様子を伝える。

5. 学校関係者評価委員会

(1) 構成

教育会代表(会長・副会長)・小学校顧問・小学校卒業生代表
関係者(校長・教頭・教務主任・担当者)

(2) 開催

2025年9月18日(水) 10:30~12:00

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及びアンケート結果の分析

(4) 学校関係者評価委員会のまとめ

9月18日に行われた学校評価委員会において、アンケートの結果を踏まえ、分析が行われた。その委員会の会議の中で、祈る心の大切さは、ほとんどの子ども達が低学年より身についてきており、高学年においても維持できるようになってきているが、創立者や建学の精神の中にある他者への感謝という点については、高学年になるほど薄れているという指摘があり、ふだんの学校教育だけではなく、家庭にも働きかけてほしいとの要望があった。また、生活習慣や生活態度を身につけ、社会に適応するという点については、あいさつの励行など児童会の働きかけによって習慣化され、身につくつつあるが、身だしなみなどには、まだまだ課題が残っており、家庭での協力が必要であり、共通理解によってますます向上できる余地が残っていることが確認された。

毎日の学習や基礎学力の向上については、先生方の児童との関わりの深さによって身についていると感謝する意見があった。

これからの ICT 教育については、AI を中心にこれから進んでいくであろう内容を含め、機器の仕様の重要性が確認されると同時に、間違った使い方によって犯罪に巻き込まれて行かないかという心配もあり、学校の中だけでリテラシーに取り組むには限界があり、家庭でのルールの確認、協力が不可欠であるという結論に至った。

委員会での主な内容は以上だが、この意見指摘を踏まえて来年度の改善点や具体的な取り組みを熟考し、来年度の計画とした。

6. 2024年度（令和6年度）アンケート調査の結果と自己評価及び次年度の課題と改善策

						アンケート調査の結果（％）				自己評価
						よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
1. 教育目標について										
創業者と建学の精神についての理解を深める										
具体的な取組計画										
毎日のテレビ放送で行う祈りを通じて、自ら祈る心と祈る習慣を身につけさせる。										
活動状況と自己評価						43	52	5	0	B+
1年生は、入学当初は、なかなかお祈りを覚えることができなかったが、毎朝唱えることによって祈りの習慣を身につけることが出来た。										
宗教の時間には、シスターたちによって創業者とその学院初期の活動についての授業を聴くことが出来、少しずつ理解を深めることが出来た。										
次年度の課題と改善策										
今年度に引き続き、次年度も毎朝のお祈りや帰りの会でのお祈りを大切にし、建学の精神の理解を深める。										
生活態度を磨き、社会における実践力を身につける										
具体的な取組計画										
教師から児童へ、児童から教師へ、児童同士が元氣な挨拶をするよう意識づける。										
活動状況と自己評価						30	68	2	0	B
児童会が中心となり、あいさつ運動を自然と取り組めるように工夫していた。										
その結果、来校されるお客様に対しても自然とあいさつできるようになった。										
次年度の課題と改善策										
誰に対しても恥ずかしがらずに、自然にあいさつを交わすことができるように学校として児童会にも働きかけ、全校児童で取り組んでいけるようにしたい。										
社会での基本的マナー、礼儀を身につけさせる										
具体的な取組計画										
正しい姿勢での挨拶を励行することの意識づけと、マナーを守ることの社会における重要性を意識させる。										
活動状況と自己評価						30	63	7	0	B
学期のはじめに始業式で「あいさつ」「身だしなみ」「言葉遣い」を学校の中できちんとできるように全校児童に促し、実行できるように全校朝礼などで確認をした。										
次年度の課題と改善策										
何度も伝えることによって意識づけをすることはできているが、確実に実行しているかという点と疑問が残る。学級の中で確認をするように計画を立てる必要がある。										
強い身体と豊かな心を育む										
具体的な取組計画										
運動会や遠足といった行事を中心に体力の向上を目指す。										
また、心の面に関しては読書週間を身につけることにより、多様性を受け入れることが出来るような心を育てる。										
活動状況と自己評価						62	38	0	0	B+
普段の休み時間やグラウンドが使用できる時には、児童全員が外に出て身体を動かしている。										
身体を動かすことが好きな児童もいれば、あまり好きではない児童もいるので、火曜日の朝のグラウンドで行われる委員会主導の「スポから」（スポーツで教室を空にする）に興味を持って参加し、身体を動かす機会を作った。丈夫な身体を作る工夫がなされた。										
2週間に1度の図書の授業を心待ちにしている児童が多く、借りてきた本を朝の読書の時間に読むようにしている。様々な本との出会いにより、心の成長につながるようにしていった。										
読書の習慣をつけることにより、いろいろ興味を持ち、人間性の豊かさや人格的成長が見込めると感じられた。										
次年度の課題と改善策										
子ども達の日常生活において、身体を動かす機会は、ほとんどないといってもいい。体育の授業や休み時間を利用して身体を動かす機会を作り、体力向上に努めていきたい。										
朝の10分間読者の時間だけでなく、本に触れる機会を増やしていきたい。本との出会いによって心の成長につなげていきたい。										

基礎学力の定着と向上を図る															
具体的な取組計画															
家庭での学習習慣を身に付けることができるように、低学年では、「毎日の学習」のプリントを配布している。毎日の宿題の直しや放課後学習により基礎学力の定着を図る。															
活動状況と自己評価										32	57	11	0	B	
低学年（3年生まで）時には、「毎日の学習」のプリント配布し、1週間の学習を見通すことによって、家庭での学習習慣を身につけられるようにしている。小テストなど計算や漢字を中心に行うことで基礎学力の定着を図ってきた。また、毎日の宿題を通して、間違いに気づき、やり直しをすることで定着を図ってきた。															
次年度の課題と改善策															
低学年で身に着けたであろう学習習慣を高学年でも継続することができるように促す。宿題やテスト直しを家庭の協力により、行うことで定着を図れるようにする。															
グローバル化する社会に対応できる力をつける															
具体的な取組計画															
英語はコミュニケーションという理解のもとに、英語でのコミュニケーションを楽しむ姿勢を身につけさせる。															
他者の意見を最後まで聞くことのできる姿勢を養う。															
活動状況と自己評価										46	40	14	0	B+	
オーストラリアのラザホール校から来日した留学生とともに低学年を中心に交流会を持つことができた。また、3年生の学習発表会で行われる英語劇では、英語で話そうと努力する姿も見られた。普段行われる授業だけでなく、英語劇や英語暗唱大会、イングリッシュサマーキャンプを通して、英語を使用してのコミュニケーションが取れるようになってきた。英語を通して、最後まで人の話を聞くことにも慣れてきた。児童にとって聞く態度が自然と身につき、一定の教育効果が見られた。															
次年度の課題と改善策															
次年度は、より多く英語に関わる機会を増やし、留学生とのコミュニケーションをとることで臆することなく、英語を話すように支援をする必要がある。さらに、英語を学ぶことの楽しさを知ることができるような授業展開を考えていく。															

										アンケート調査の結果（％）				自己評価	
										よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
2. 学校目標について															
魅力ある信愛教育を追及する															
具体的な取組計画															
月毎に聖書の言葉を定め、毎朝それを唱え、一日のはじまりとする。															
「神様が、人が、そして自分が好き」という思いを育てる。															
活動状況と自己評価										37	61	2	0	B	
毎日の朝礼では「今月のみことば」として全員でみことばを唱えることを実践した。児童たちは月が替わり唱える箇所が変わっても、すぐに暗唱できるようになるものが多くいた。自然に聖書の言葉を覚え、やがては児童たちの心の糧となることが期待できる。みことばの中に記されているキリスト教の中心としての愛の精神を理解し、すべての人が神に愛されており、そのような自分と他者とは神にとって同じように大切な存在であること気づいてはいるが、なかなか実践できないのが実情である。宗教の時間等を通して、実践できるような取り組みを行う工夫が求められる。															
次年度の課題と改善策															
「今月のみことば」は、朝礼において毎日継続して行う。宗教の授業だけでなく、みことばに触れる機会を増やす。															
ICT機器やDVD（ビデオ）を使用した授業の中で、他者に対して思いやる気持ちを直感的に理解できるようにしていく。															

児童が持つ能力を最大限に伸ばす											
具体的な取組計画											
教科教育だけではなく、行事や休み時間を通じて一人ひとりの能力が発揮されるように、教職員全員で一人ひとりの児童と積極的に関わる。											
活動状況と自己評価											
全学年を通じて、授業時間だけではなく教員は児童たちと積極的に関わる姿が見られた。本校教職員の自己犠牲をいとわない指導は、他校と比較しても高いレベルで行われている。今後も授業時間であるかどうかにかかわらず、児童たちと触れ合う時間をできるだけ持つことで、児童の中にある様々な能力を引き出すことに意識を持ち、日々の努力を継続していきたい。						57	33	10	0	B+	
次年度の課題と改善策											
宿題やテスト直しなど、家庭の協力がないとできない場合が多い。児童本人が毎日の宿題や週末のテスト直しなど、保護者に確認をしてもらい、提出するように促していけたらと考える。休憩時間を使用し、宿題や直しを先生たちが児童に関わることが大切であることから継続していく。											
ICT機器を効果的に活用した授業を展開する											
具体的な取組計画											
学年や教科によってどのような場面や教材でICT機器の利用をしたかということを共有し、今後の授業展開に反映させていく。											
活動状況と自己評価											
4年生以上では一人1台タブレットを所有しており、授業内ではかなり有効に使用できるようになった。教員がタブレットの利用に慣れてきたことと、児童たちも慣れてきたことによって、今後の利用方法はさらに有意義なものとなっていくと感じられた。他方、低学年においては学校のPCやタブレットを共有する形での利用となるため、4年生以上の学年と比べると、十分な形での授業への導入は困難な状況である。教員がタブレットを用いて、図や写真などをホワイトボードに写すだけの利用となっている。低学年でのICT機器の利用については再考の必要がある。						25	71	4	0	B+	
次年度の課題と改善策											
4年生以上では、1人1台のタブレットを個人持ちにすることによって、授業での使いやすさは出てくる反面、充電するためや宿題をするために家庭へ持ち帰るときの家庭でのルールがまちまちになることがあり、間違った使用をする児童がいることは確かである。学校で統一したルールを決めてはいるが、なかなか浸透しないのが実情である。今後、家庭との連絡を密にし、使用方法やリテラシーを児童に徹底する必要がある。											
募集・広報活動の拡張・充実を図る											
具体的な取組計画											
オープンスクール、入学説明会の充実を図る。											
活動状況と自己評価											
これまでの私学展や説明会に加えて、3年前より「ミニ学校見学会」を計画、実施した。「ミニ学校見学会」は日ごろの児童の姿を見ることが出来、学校説明会やオープンスクールでは伝えられないところを十分に保護者に伝えることが出来た。ミニ学校見学会では、午前の部と午後の部の一日2部制として、それぞれ5組を上限に申込制で行った。保護者からの評価も高く、すぐに5組枠は埋まり、有効な募集・広報活動であることが分かった。						50	50	0	0	B+	
次年度の課題と改善策											
次年度も「ミニ学校見学会」は、継続していく。どの先生も対応できるようにしていくことが大切であると考え。時期や人数など考え、より魅力ある信愛小学校を見学してもらえるようにすることが大切である。実際に足を運んで、授業を見たり、校内を見学することでミッションスクールとしての雰囲気や本校の教育理念を理解することにもつながる。											